



# 「試交17-22」で高品質なナスをいっぱい獲ろう！

－ナス新品種「試交17-22」の栽培技術を確立－

## 開発の背景・ニーズ

2021年に多収性で漬物加工適性の高い単為結果性とげなしナス「試交17-22」(2021.11.29登録出願)を本場で開発し、2023年より本格的に栽培が開始されています。産地から品質の良さが評価された一方、従来品種と同様の管理方法で栽培したところ、暖候期のつや無し果の発生や2月までの収量の伸び悩みが課題に挙げられました。これらの課題を克服する技術確立に取り組み、栽培指針を作成しました。



「試交17-22」の果実

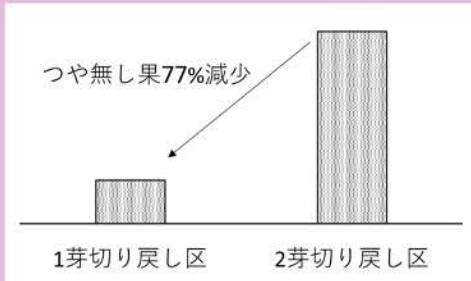
## 成果の内容

剪定、かん水、摘葉について有効な管理方法を明らかにしました。

- ① 剪定方法：こまめな剪定（1芽切り戻し）の徹底
- ② かん水方法：少量多頻度のかん水
- ③ 摘葉方法：葉の摘葉は遅めにし、多くの葉を付けておく

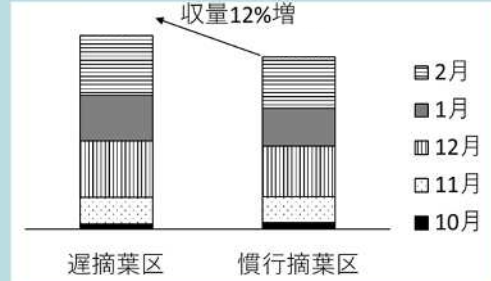
これらの管理方法や品種の特性をまとめ、促成栽培向けナス「試交17-22」の栽培指針を作成しました。

### ① 剪定方法



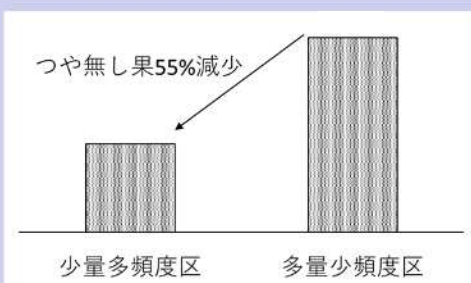
こまめな剪定（1芽切り戻し）により、つや無し果が減少

### ③ 摘葉方法

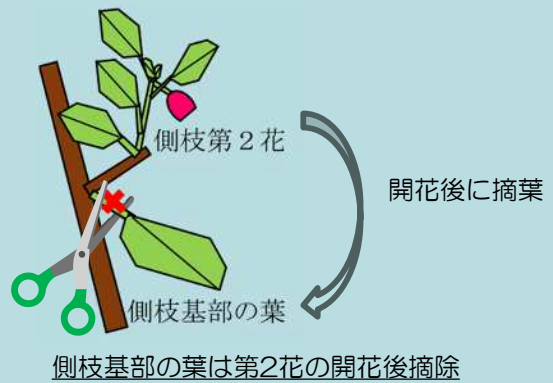


摘葉を遅くすることにより冬期の収量が増加

### ② かん水方法



少量多頻度のかん水によりつや無し果が減少



## 愛知県農業への貢献

栽培指針を活用することで、品種のスムーズな切り替えや品種特性を活かした高品質多収生産が可能となり、ナス生産者の経営安定化と産地の維持発展に貢献できます。